

いとわ

代表者 竹友 美樹 (人文B4年)
 構成員 植田 源太 (共獣B2年)

1. プロジェクトの概要

大学生同士で分け隔てなく交流できる場は少なく、自己表現をする機会もあまりない。そこで、作品を通じた交流の機会を提供したいと考えた。スマートフォンが普及した現在、写真は誰でも手軽にできる自己表現の一つであると考え。しかし、撮影した写真をわざわざ印刷して誰かに見せたり、手に取ったりする機会は少なくなっている。写真を媒介として自分の見ている世界を表現し、他者が見ている世界を知り、認めあえる交流の場を作りたいと考えている。

2. 実施計画

- ① 週に1度のペースでテーマを決め、テーマに沿った写真を各自で撮影する。
- ② 1週間後、撮影した写真を集めて印刷し、自主活動ルームで写真を手に取りながら楽しく話ができるような交流の場を設ける。
- ③ 撮影した写真は2週間、自主活動ルームのホワイトボードに貼って展示する。
- ④ スケッチブックにも写真を貼り、フォトブックを作成する。フォトブックは自主活動ルームに展示し、活動の記録、作品集として残していく。

表1 実施テーマ一覧

実施日	テーマ名
2017年 7月 7日	「自己紹介」
7月 14日	「植物」
7月 21日	「動物」
7月 28日	「冷たい食べ物」
8月 4日	「好きな場所」
9月 22日	「夏休み」
9月 29日	「夏休み②」
10月 6日	「夏休み③」
10月 13日	「秋」
10月 20日	「ときめき」
10月 27日	「ほかほか」
11月 10日	「おやすみ」
11月 17日	「いろづき」
11月 24日	「ほっこり」
12月 1日	「冬」
12月 8日	「最近作ったもの」
12月 15日	「きらきら」
2018年 1月 19日	「2017年ハイライト」
1月 26日	「白・黒」
2月 2日	「柄・模様」
2月 15日	「ありがとう」

3. 活動状況

3.1 通常展示

前頁の表1に示すような日程とテーマで写真展を通した交流会を自主活動ルームにて行った。テーマは参加者で話し合い、次回のテーマを決めた。

参加者は多くはないが、気軽に参加することができるため、自主活動ルームに来ていた方がその場で写真を送るという場面もあった。「交流会には行けないけれど写真は送ります」と言ってくださる方もいた。



展示の様子



交流の様子

3.2 オープンキャンパス（8月5日）

山口大学のオープンキャンパスにスタッフとして参加した。自主活動ルームにいらっしゃった方に自主活動ルームや「山口大学おもしろプロジェクト」についての説明をした。



オープンキャンパスの様子

3.3 山口県立山口高等学校放送部の取材（9月5日）

山口県立山口高等学校放送部の取材を受けた。気になるプロジェクトということで取材をして頂いた。「山口大学おもしろプロジェクト」のこと、「いろいろ」をどうして立ち上げたのか、どのような活動をしているのかなど様々な質問を受けた。「いろいろ」を始めようと思った経緯を思い出すことができ、良い経験になった。

4. フォトブック

ホワイトボードへの展示と同時に、フォトブックを作成した。フォトブックはスケッチブックに印刷した写真を貼りつけるという方法で作成した。自主活動ルームに展示し、誰でも自由に閲覧できるように、作品集および活動の記録として残すことを目的とした。フォトブックの形にすることで、自分の写真がきちんと作品として大切に扱われているという体験を持ってもらいたいという意図がある。



フォトブック

5. 作品について

同じテーマで写真を撮っても、撮る人の感性で全く違う写真が集まる。例えば、「冬」というテーマで写真を撮る時、冬らしい写真が集まるが、何を見て冬を感じるかは人によって違う。雪などの冷たさを感じるものを撮影する人もいるが、鍋や動物などの温かさを感じるものを撮影する人もいる。全く正反対の内容の異なる写真だが、どちらも確かに冬を感じる写真になる。

テーマの解釈もひとつではない。様々な解釈が可能なテーマに設定していることもあるが、どのようにテーマを捉えるかも人それぞれである。例えば、「最近作ったもの」というテーマを設定した時、ものづくりの写真が多く集まったが、その中で「思い出を作ってきた」と言って旅行先の風景を撮った人がいた。全く考えもつかなかったテーマの解釈で、交流会では「人それぞれ考えることが違っておもしろい」という話になった。

また、作品の展示は完全に匿名で行っていたが、「この写真は〇〇さんが撮った写真っぽいよね」という会話が生まれることもあった。これは作品を通した他者理解であると感じた。写真はその人が見ている世界、視点を如実に表す。どこに注目しているか、何をおもしろいと感じているかが直接的に伝わる。自己表現の手段に写真を用いたことで、より分かりやすく体験することができたと考える。



作品の一例

6. まとめ

「山口大学おもしろプロジェクト」で「いろとわ」をする前に、自主活動として「なんがでつきょんな写真展」という企画を行っていた。当時の先輩が行っていたお昼に集まってご飯を食べる「なんがでつきょんな」という活動のなかで、「いろとわ」と同じように写真展をしていた。活動はおもしろいものになり、手ごたえを感じたため、「山口大学おもしろプロジェクト」の「いろとわ」として活動をすることを決めた。

活動をしていて、「一番良い写真はどれですか？」と聞かれたことがある。一瞬考えた後、すぐに「一番良い写真というものはありません」と答えた。このエピソードこそが「いろとわ」の本質であると思う。

「いろとわ」を作り、活動をしていく中で大切にしていたことは「否定しない」「優劣をつけない」「拘束しない」ということだった。誰でも気軽に参加することも、参加しないことも自由に選ぶことができ、自己表現ができる交流の場を作ることを目指した。簡単に心無い言葉で否定され、誰か何かと比べて優っている劣っていると評価される場所に多くの人が晒されていると感じる。私を私のまま、あなたをあなたのまま、ありのまま丸ごと全部、受け入れて認める場所が少しくらいあってもいいのではないかと思った。もし「いろとわ」が誰かの居場所になり、少しでも必要とされることができたなら、とても嬉しく思う。

プロジェクトを通して、自己表現ができる場、居場所づくりの難しさと重要性を感じた。活動を終え、振り返ってみると、「いろとわ」は立派なアートプロジェクトだったと思う。これから先、大学の中に自由に自己表現ができる場、交流できる場、認めあえる場が増えることを願っている。

いろとわ

あなたの見ている世界を紹介してください。

プロジェクト概要・発案背景

学生の中で分け隔てなく交流できる場は少なく、自己表現する機会もあまりない。
そこで、作品を通して交流の機会を確保したいと考えた。
スマートフォンが普及した現在、写真は誰でも手軽にできる自己表現の一つであると考え、
さらに、撮影した写真をわざわざ印刷して誰かに見せたり、手に取ったりする機会は少なくなっている。
いろとわでは、写真を媒介として自分の見ている世界を表現し、他者が見ている世界を知り、
認めあえる交流の場を構築することを目的とする。

2017年 実施テーマ一覧

7月3日	テーマ「自己紹介」	11月10日	テーマ「あやめみ」
7月14日	テーマ「植物」	11月17日	テーマ「いもむき」
7月27日	テーマ「動物」	11月24日	テーマ「はーりん」
8月10日	テーマ「おいしい食べ物」	12月1日	テーマ「冬」
8月14日	テーマ「好きな場所」	12月8日	テーマ「歳時考〜たのしみ〜」
9月22日	テーマ「夏休み」	12月15日	テーマ「クリスマス」
9月29日	テーマ「夏休み②」	1月16日	テーマ「2017年バレンタイン」
10月6日	テーマ「夏休み③」	1月23日	テーマ「冬・雪」
10月13日	テーマ「秋」	2月2日	テーマ「お正月」
10月20日	テーマ「立冬前夜」	2月15日	テーマ「ありがとう」
10月27日	テーマ「はかばか」		

活動の流れ

- ①交流会の中でテーマ決め
- ②各自で写真撮影
- ③写真をメール提出
- ④印刷した写真を互いに交換
- ⑤写真をオウチンボードに掲示
- ⑥アルバム作り

結果・感想

活動をしていて「一番良い写真はどれですか？」と聞かれたことがあります。
一瞬考えた後、すぐに「一番良い写真というものはありません」と答えました。
いろとわを通して、活動をしていく中で大切にしていたことは「否定しない」「優劣をつけない」「拘束しない」ということだった。
誰でも気軽に参加することも、参加しないことも自由に選ぶことができ、自己表現ができる交流の場を作ることを目指した。
簡単に心無い言葉で否定され、誰か何かと比べて優っている劣っていると評価される場所に多くの人が晒されていると感じる。私を私のまま、あなたをあなたのまま、ありのまま丸ごと全部、受け入れて認める場所が少しくらいあってもいいのではないかと思った。
もし「いろとわ」が誰かの居場所になり、少しでも必要とされることができたなら、とても嬉しく思う。
プロジェクトを通して、自己表現ができる場、居場所づくりの難しさと重要性を感じた。
活動を終え、振り返ってみると、「いろとわ」は立派なアートプロジェクトだったと思う。
これから先、大学の中に自由に自己表現ができる場、交流できる場、認めあえる場が増えることを願っている。

最終報告掲示用ポスター